大学院を強化

東教大移転賛成派が改革案

東京教育大の筑波移転に賛成の教官二百六八人で構成する「東京教育大学正常化と発展を期する会」は五日、移転後の新大学の研究体制などの改革案を発表した。

構想によると、新大学は学部、研究所、大学院の三部門で構成され、大学院を強化するため研究所と大学院による"研究複合体"が新大学の核になっている。

まず、これまで学部の付属機関的色彩の強かった大学院の観念を改めるため、教授の所属を学部から大学院に変え、大学院教授が学部学生に講義する形をとる。同時に、各学部につぎ足された形だった大学院を、学部と関係なく純粋・応用科学部門と、専門・技術部門にわけ、両部門にいくつかの専門課程を設置する。両部門にはいらない分野、たとえば総合科学、巨大科学などは共通施設として設置する研究所で研究する。

4/6 読売

筑波学園都市の環境整備

坪川建設相談

4/8 読 9

坪川建設相は八日の閣議で前日の七日に筑波研究・学園都市を視察した結果について報告するとともに、「研究・学園都市の整備にあたっては道路、下水道などに力を入れたい。とくに住宅については学究の徒にふさわしいものとするよう、七日に現地で日本住宅公団の林総裁に指示した」と述べた。

無機材質研きょう起工式

学園都市 秋には研究開始

3/27 日経

茨城県の筑波山ろくに建設する研究学園都市には四十七年度までに十二機関の移転をはかる方針がこのほど決まったが、その移転第二号になる科学技術庁の無機材質研究所の起工式が二十七日、筑波地域の新治郡桜村で行なわれる。

この無機材質研究所は炭化けい素、酸化ベリリウム、酸化バナジウムなど多くの無機材質についての合成、組織、構造、特性を研究し、新しい材料の開発と、既成材料の品質を改善するカギがかりそうかなめの仕事。こんど着工するのはこのうち粉末無機材質の作質、性能の解明と、新しい無機材質の合成研究を行なう特殊実験棟で、最高二十万気圧までの圧力を使用する実験が可能な高圧力装置を整備する。

特殊実験棟の建設費は高圧力装置を含め総額三億四千万円。ことしの十月末ごろまでに完成し、十一月から実験を開始する。研究学園都市では昨年十月、同じ科学技術庁の防災科学技術センターが移転機関のトップを切って建設に着手しているが、この方は実験開始が四十五年度にはいってからになるため、実際には無機材質研究所が一足先に動き出すことになる。

なお、研究学園都市には[illegible]全部で三十六機関の移転が決まっているが、具体的な年次別移転計画は防災科学技術センターと無機材質研究所を除いてはまだはっきりしていない。このため県では政府に対して四十五年度までには少なくとも十機関を移転させてほしいと迫っている。

2/28 サンケイ 朝刊

八人の学生に逮捕状

東教大 教授の不法監禁で

教室たのんで学長や教授をつるしあげる"大衆団交"にきびしい姿勢を打ち出している警視庁は、東京教育大の三教授つるし上げ事件について、捜査をすすめた結果、二十七日までに、同大文学部自治会副委員長、T(二〇)ら八人の逮捕状を用意した。警視庁はさきに大内力東大学長代行代理が反日共系学生に不法監禁された事件でも東大生一人を逮捕しており、今後も「学生の集団暴力は許さない」という強い態度をつらぬく方針でいる。

東教大のつるし上げ事件は今月八日昼すぎ、文京・大塚の大学前レストランで、昼食中の理学部の橋本[illegible]、福田信之、宇田川[illegible]の三教授が、反日共系の文学部自治会役員などの学生三十人に文学部に連れこまれ、およそ十時間にわたって監禁されたもの。

三教授はレストランから無理やり連れ出され、文学部のG館五〇一教室まで連れこまれたが、橋本教授は連行を強く拒否したため、学生たちに暴行をうけた上、かつぎあげられて運ばれたという。その後、四百人にふえた学生たちは理学部教授会が決めた「当分の間、学生の学内立ち入りを禁止する」など三項目の撤回をせまり、三教授は自己批判書に署名を強要された。

三教授は翌九日「生命に危険があったので、意思に反して署名せざるをえなかった」と誓約の無効を表明し、大塚署に訴えた。同署は警視庁公安部と協力して、捜査した結果、Tら幹部のつるし上げが刑法の「逮捕監禁罪」にふれる不法行為であることがはっきりしたため、暴力行為などの疑いで逮捕状を用意した。

公安部では、三教授は筑波移転推進派であるため、移転に反対する学生たちのねらいうちにあったものとみているが、東大の大内学長代行代理の事件と同様、学生たちが集団の力をかりて教授たちに肉体的、精神的な圧迫を加えるのは新たなる刑事事件である—としており、今後、告訴がなくても「ビシビシ摘発する方針。

東教大文学部 教授会がボイコットへ

学長代行の所信表明

東京教育大文学部は二十六日の教授会で「二十七日、東京・文京区文京公会堂で開く予定の宮島学長代行の所信表明集会にはいっさい協力しない」との態度を決めた。この決定に従い、同学部の教官は集会出席をボイコット、会場外で学生の補導だけを行なうという。

教授会は非協力の主な理由として、所信の内容を事前に教授会に知らせるよう要請したのに実行されなかったことをあげているが、そのほか❶会場の収容能力が約千人で学生四千人を収容するには狭すぎる❷学内に掲示を出しただけで、個々の学生に集会の通知が送られていない、など集会開催の十分な配慮が欠けていることも理由だという。